

みずほCustomer Desk Report 2023/05/22号(As of 2023/05/19)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】				公示仲値	138.47
	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	138.64	1.0776	149.40	1.2413	0.6628
SYD-NY High	138.74	1.0828	149.77	1.2484	0.6675
SYD-NY Low	137.44	1.0760	148.72	1.2393	0.6618
NY 5:00 PM	137.93	1.0807	149.05	1.2446	0.6651
	終値	(前日比)		終値	(前日比)
NY DOW	33,426.63	▲ 109.28	日本2年債	▲0.0600%	0.0000%
NASDAQ	12,657.90	▲ 30.94	日本10年債	0.4000%	0.0200%
S&P	4,191.98	▲ 6.07	米国2年債	4.2766%	0.0185%
日経平均	30,808.35	234.42	米国5年債	3.7381%	0.0511%
TOPIX	2,161.69	3.84	米国10年債	3.6813%	0.0317%
シゴ日経先物	30,875.00	▲ 50.00	独10年債	2.4265%	0.0135%
ロンドンFT	7,756.87	14.57	英10年債	3.9865%	0.0320%
DAX	16,275.38	112.02	豪10年債	3.5930%	0.1230%
ハンセン指数	19,450.57	▲ 276.68	USDJPY 1M Vol	10.66%	0.37%
上海総合	3,283.54	▲ 13.78	USDJPY 3M Vol	10.34%	0.26%
NY金	1,981.60	21.80	USDJPY 6M Vol	10.38%	0.25%
WTI	71.69	▲ 0.25	USDJPY 1M 25RR	▲1.44%	Yen Call Over
CRB指数	262.13	0.47	EURJPY 3M Vol	9.71%	0.10%
ドルインデックス	103.20	▲ 0.39	EURJPY 6M Vol	10.06%	0.09%

東京	東京時間のドル円は138.64レベルでオープン。朝方には本邦4月のCPIが発表され、ヘッドラインおよびコア指数ともに市場予想と一致し、前月の上昇から伸びが拡大。直後のドル円は特段の反応はなかったものの、徐々に物価上昇の力強さが意識され、ドル円は138.28まで下げる場面も。その後は138円半ばまで反発すると、レンジでの推移が続いた。週末を控える中、引けにかけては昨日からの上昇の利食いの動きもあり、下落に転じたことで138.06レベルで海外時間に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、138.06レベルでオープン。週末を控えてもみ合うも、米金利の上昇を背景に138.47まで反発し、結局138.43レベルでNYに渡った。欧州株は前日に続き全面高で推移。ユーロドルは、1.0787レベルでオープン。1.0809まで堅調に推移し、結局1.0809レベルでNYに渡った。
ニューヨーク	海外市場のドル円は138円台後半でスタート。本邦4月CPIの結果は予想通りとなったものの、前月の結果から上げ幅を拡大していることから売りで反応し、138円半ばまで下落。その後は利益確定の売りも散見される中、一時137.98まで下落する場面もあったが押し目での買いも根強く、138.43レベルでNYオープン。朝方は主要な米経済指標の発表が予定されておらず、米金利上昇を横目に買われ138.65まで上昇。その後、パウエルFRB議長が「信用状況が逼迫する中、目標達成のために政策金利をそれほど引き上げる必要はないかもしれない」と発言したことや「米債務上限交渉に障害、共和党担当者退席」等のヘッドラインが続いて伝わりドル売りが強まり137.44まで反落。午後は米金利が持ち直す展開を受けて138円台前半まで上昇。終盤は週末を控え、次第に動意乏しくなり、その後137.93レベルでクロス。一方海外市場のユーロドルは1.07台後半でスタート。独4月PPIが予想を上回り、更に独DAX指数が22年1月以来の水準で堅調に推移していること好感され、ユーロがじりじりと買われ、1.0809レベルでNYオープン。朝方は先述の米要人発言を受け、ドルが売られ、高値1.0828まで上昇。午後は米金利の反転上昇が上値を抑制、1.0800付近まで下落し、1.0807レベルでクロス。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:大熊・大橋

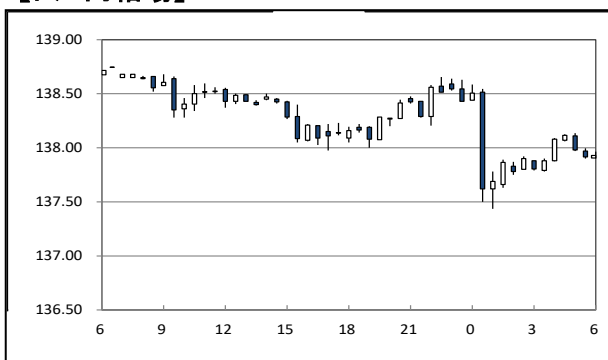
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
5月19日	08:30	日 全国CPI	4月 3.5%	3.5%
	08:30	日 全国コアCPI	4月 3.4%	3.4%
	08:30	日 全国コアコアCPI	4月 4.1%	4.2%
	15:00	独 PPI(前月比/前年比)	4月 0.3%/4.1%	-0.5%/4.3%
5月20日	00:00	米 パウエルFRB議長 講演	「追加の引き締めが適切か何の決定も下していない」	

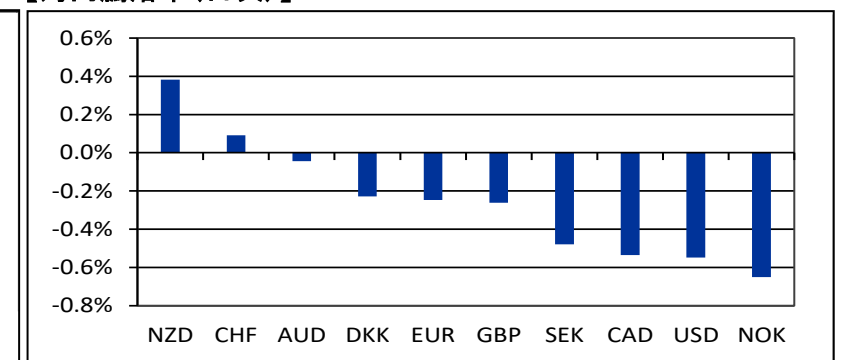
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
5月22日	21:30	米 ブラード・セントルイス連銀総裁 講演	-	-
	23:00	欧 消費者信頼感・速報	5月 -16.8	-17.5

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	137.00-138.50	1.0750-1.0890	148.50-150.00

【マーケットインプレッション】

先週末の海外市場でのドル/円は軟調な展開となった。10会合連続で引き上げた政策金利を巡り、追加引き締めが適切か何の決定も下していない、とのパウエルFRB議長の発言や、イエレン米財務長官の、今後も銀行間の合併が発生する可能性があるとの発言を受けて金融システム不安が再燃、138円台後半まで上げていたドル/円は、米長期金利の低下に伴って急落する展開となった。また、米債務上限を巡る協議が一時中断されたとの報道が伝わると、137.44円まで下値を切り下げた。その後、買い戻されたものの上値は重く、137円台後半で越過している。本日のドル/円は引き続き、上値重い展開を予想する。パウエル議長のハト派な発言や、米債務上限を巡る不透明感が改めて意識されていること等が相場の重しとなっている。先週末までのリスクオンが一転、反動でドル売りの流れとなっており、米債務上限問題の決着がつくまでは、ドル/円は調整売りが強まりやすい地合いとなりそうだ。